



広報

大熊町役場会津若松出張所

9月1日発行 / 大熊町役場総務課 所在地：福島県会津若松市追手町2番41号 ☎フリーダイヤル：0120-26-3844(代)
E-mail：okuma@town.okuma.fukushima.jp / ブログ大熊町 http://blog-okuma.jugem.jp/
大熊町公式ホームページ http://www.town.okuma.fukushima.jp/

今月の主な内容

特 町 民 の お 保 あ	の う 民 の お 健 民 ら	ご の ま あ ら だ 掲 か	集 き ば い 通 せ り 板 と	②～③ ④～⑤ ⑥～⑨ ⑩～⑬ ⑭～⑰ ⑱～⑲ ⑳～㉓ ㉔～㉕ ㉖
---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---	---

フルーツの香り漂う 回マンの里

おおくま

祈りの日

— ラブフォーニッポンロード (2014.8.11) —

2014〔平成26年〕No.506

9



文化財の現状を調査

大熊町教育委員会は町内の文化財の現状を把握するため、東日本大震災後初めての現地調査を、このほど行いました。この結果、神社4件が全壊、神社や地蔵など6件が半壊しているなど、深刻な被害を受けたままであることが分かりました。修復が難しいものもあり、町教委は町文化財保護審議会とともに、文化財を後世に伝える方策を検討します。

町民族伝承館に収蔵されていた主要な文化財は平成24年度の文化財レスキューで町外に運び出されましたが、その他の文化財は手つかずのままです。審議会委員から「文化財は地域住民の心のよりのところ。現状を把握し、残ったものだけでも保存できないか検討が必要」との意見が寄せられたため、4月から6月までの間に合計10回にわたって現地に入りました。

調査地点109カ所で、神社仏閣や石像石仏など280件の現状を確かめました。多くの文化財は帰還困難区域にあり、地震や津波による損壊の上、その後も風雨にさらされて傷みが進んでいました。また高線量の場所に存在する文化財も多くあり、現段階では修復などの対策を取るのには困難な状況です。町教委や審議会は文化財を別の場所に一時保管し、将来の帰還後に戻す方法や国、県などの関係機関と協力し、できる限り文化財を後世に残す方法を検討していきます。



東堂山(夫沢) 本殿が倒壊。拝殿は健在。
半壊



諏訪神社(熊川) ほぼ全壊。拝殿部分が流失。本殿のみ残っている状態。
半壊



熊町虚空蔵尊(夫沢) 根元から折れた石碑あり。
半壊



首無し整列地蔵(夫沢) 庚申塔、首無し地蔵2体以外は流失。
半壊



正一位稻荷神社(熊川) 扉部分が壊れている。内部が野ざらし状態。
半壊



頭森公園(大川原) 石碑が公園下に落下。
半壊

全壊4件、半壊6件…

愛宕神社（夫沢） 震災前から緑に囲まれていたが、現在は土台だけを残して跡形もなくなっていた。

全壊



山神社（夫沢） 本殿を残し倒壊。倒壊した拝殿内部には住民が憲法発布を記念してつくった「憲法発布記念板」が残る。

全壊



海津見神社（熊川） 標柱が見つからなければ神社があった場所と気づかないほど。残ったのは鳥居の面影と草に埋もれた石碑。

全壊



湯神社（野上） 震災前から老朽化が懸念されていた。倒壊して雨ざらしになった個所は腐食が進んでいた。

全壊



「おおくま希望の翼」で豪州派遣



▲バサースト高校で学んだ派遣団



▲バサースト高校で授業を受ける生徒

平成26年度大熊町海外派遣事業「おおくま希望の翼」が8月1日から9日までの日程で行われ、中学生17人がオーストラリアの姉妹都市バサースト市で見識や交流を深めました。

1日に町役場会津若松出張所で行われた出発式では、鈴木茂副町長から「豊かな創造性と意欲を発揮し、それぞれの研修テーマに取り組んでほしい」と激励を受け、バスで成田空港に向かいました。派遣団はバサースト市に到着すると、地元の高校関係者らの歓迎を受けました。現地でホストファミリー宅に宿泊しながら高校で英語教室に参加したり、乗馬や砂金採りを体験したりして充実した日々を過ごしました。帰国前にはシドニーでオリンピック会場や動物園、オペラハウスなどの観光も楽しみました。

無事に帰国した派遣団は9日、町役場会津若松出張所で家族や町職員の出迎えを受けました。到着式で鈴木麗菜さん（平商高2年）は「忘れられない思い出がたくさんできました。派遣の成果を今後の生活に生かします」と語りました。



▲クリケットを体験する生徒



▲乗馬体験する生徒



▲到着式であいさつする鈴木さん



▲シドニー観光を楽しむ生徒

町のうごき

小泉復興政務官と意見交換

小泉進次郎復興政務官は8月4日、大熊町役場会津若松出張所を訪れ、目指すべき復興への道などについて町職員と意見交換しました。

若手を中心とした約30人の職員からは「将来被るかもしれない子どもの風評被害対策を今から示してほしい」「小中学生が減少している中、魅力ある中高一貫校とするためには何が必要か」「町の農業はどこに進むべきか」「将来が見えず途方に暮れる人が元気を持てる言葉を教えてほしい」などの質問が寄せられました。

小泉政務官は現場の職員と共に悩み、解決策を模索していきたいとの思いを伝え「率直な職員の意見を聞けて収穫だった」と話しました。



▲職員にあいさつする小泉政務官



▲小泉政務官に意見を述べる職員

復興計画検討委が 第2回会合

大熊町第二次復興計画の策定に向けた第2回検討委員会は8月5日、大熊町役場会津若松出張所で開かれ、町民生活支援と町土再生の方向性について、引き続き意見を交わしました。

町民生活支援については「住まい」「医療・福祉」「産業・雇用・生きがい・コミュニティ」「教育・子育て」などに分けて課題と方向性を挙げました。町土復興、町外拠点については大川原復興拠点や役場機能のあり方、町外コミュニティの構築などについて協議しました。

第二次復興計画は今後10年で実現したい町の姿を示す目的で策定します。年内に4回の委員会を開き、町に計画案の提出を目指しています。



▲生活支援策などについて意見を交わした委員会

健康で楽しく働ける、豊かなまちをつくりましょう。
みんなで助けあい、明るいまちをつくりましょう。
きまりを守り、平和な住みよいまちをつくりましょう。
自然を愛し、きれいなまちをつくりましょう。
進んで学び、香り高い文化のまちをつくりましょう。

東京湾ランチクルーズで交流

東京都、神奈川県に避難している大熊町民が8月2日、東京湾ランチクルーズに招待されました。

東京都遊技業協同組合の主催で、約130人が参加しました。竹芝客船ターミナル発着のヴァンテアン号で2時間ほどの船旅を体験しました。レインボーブリッジ、お台場、羽田空港などの景色を眺めながら、コース料理に舌鼓を打ちました。デッキに上って記念撮影をするなど、参加者は楽しい週末のひとつを過ごしていました。

船には鈴木茂副町長や町復興支援員、町職員も乗り込み、町民の皆さんから近況やご意見を伺いました。



ヴァンテアン号に乗り込む参加者



コース料理を楽しむ参加者



デッキで記念撮影する参加者

地元大学生のアドバイスで夏休み学習



学生の助言を受けながら学習する生徒

夏休み期間中の大熊中生の自習を支援する学習会「がんばろうセミナー」は8月5日から7日まで、会津若松市の同校仮設校舎で開かれ、生徒が地元大学生のアドバイスを受けました。

東日本大震災の前から実施していましたが、同市で学校を再開後は会津大、同短期大学の学生に講師を務めていただいています。生徒はそれぞれ夏休みの宿題などを持ち込み、学生に疑問点を教わりながら学習を進めていました。

町民のひろば

浜屋台グランプリに参加しました

東京電力福島第一原発事故に伴い県内の仮設住宅に避難している住民の方々が郷土料理や創作料理の人気を競う「浜屋台グランプリ」が7月26日、郡山市のビッグパレットふくしまで初めて開かれました。

避難区域を抱える南相馬、飯館、浪江、葛尾、大熊、富岡、川内、楡葉の8市町村から10チームが出店しました。大熊町からは扇町5号公園仮設住宅チームが出場。来場者に笑顔あふれる対応で「とうふ餅」300食を振る舞い、大熊町の元気を発信していました。

惜しくもグランプリにはなれませんでした。子どもからお年寄りまでたくさんの方々が「とうふ餅」に舌鼓を打ち、故郷に思いを馳せていました。



とうふ餅を振る舞った
扇町5号公園仮設住宅チーム



多くの人が詰めかけたブース

双葉郡町村対抗野球大会 8チームが熱戦

平成26年度双葉郡町村対抗交流野球大会は7月27日、楡葉町総合グラウンドで開かれ、大熊町チームが3位の成績を収めました。

郡内8チームが出場しました。大熊町は初戦で葛尾村に勝利しましたが、続く準決勝で浪江町に敗れ、惜しくも決勝進出は逃しました。優勝は富岡町でした。



3位入賞した大熊町チーム

県民スポーツ相双大会 バドミントンで2位

第67回県総合体育大会県民スポーツ相双地域大会は8月3日、相馬市で開かれ、大熊町はバドミントンで2位の好成績を収めました。

大会は避難が続く現状の中でも、スポーツを通じて相双地域の絆を取り戻そうと毎年開かれています。

バドミントンは4チームによるリーグ戦で争われ、大熊町は2勝1敗でした。壮年ソフトボールは7チームによるトーナメント戦で、大熊町は3位でした。

開
選
手
た
ち
会
式
で
健
闘
を
誓
う



東山盆踊りにぎわう

「会津若松市民・大熊町民盆踊り」は8月16日、会津若松市の東山温泉街で開かれ、大勢の人でにぎわいました。

開始時刻が近づくまで不安定な天候でしたが、雨もなく無事開催されました。大熊町民、会津若松市民、東山温泉の観光客の方々が大勢集まり、会津と浜通りで行われている2つの盆踊りを楽しみました。

また、東山盆踊り70周年を記念して「光の街プロジェクト」も同時開催され、7色に変化する提灯が通りに華を添えました。

渡辺利綱町長は「東日本大震災で東山温泉に避難した際、暖かい温泉に入ること以上に温かい心で迎えていただいたことが昨日のことのよう思い出されます。復興再生は長くて険しい道のりですが、皆さまからいただいたご支援に報いるためにも、自立への道を歩んでいきたい」とあいさつしました。



盆踊りで盛り上がる参加者

雨でも盛況「おおくまつくば夏祭り」



盆踊りや屋台などを繰り広げた夏祭り

会津若松市の城北小学校北仮設住宅で8月10日、おおくまつくば夏祭りが催されました。

開始時間の午後3時を過ぎても天候は落ち着かず、時折強い風雨にさらされることもありましたが、集会所内でのふるさと塾による布芝居や屋外テントでの屋台、スイカ割りなどを繰り広げました。大熊町出身で筑波大生の佐藤愛さんが笛を担当する盆踊り

も楽しみ、大いに盛り上がりました。

筑波大生の竹田早加さんは、町民の方から「筑波大学の皆さんが祭りに関わってくれて、とても幸せだという言葉いただいた」と喜び、同じく筑波大生の森山大気さんは「天候の悪中、沢山の方が来てくださり、色々な人と支え合いながら祭りができてうれしかった」と話していました。



多彩な出し物を楽しんだ参加者

水の作文コンクール齋藤真緒さん優秀賞



第36回「全日本中学生水の作文コンクール」で大熊中2年の齋藤真緒さんが環境大臣賞（優秀賞）を受賞しました。同コンクールは国土交通省、都道府県の主催で「水について考

える」をテーマとしています。今回は19,418編の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞8点を決めました。齋藤さんの受賞作品を紹介します。

ふんふん

大熊中2年 齋藤 真緒

あれから三年。私は第二の古里である会津で元気に生活している中学二年生です。地域の方の優しさで温かさに見守られ、あの恐ろしかった光景は私の心から少しずつ忘れかけているように感じます。

私は、あの日までは将来のことなど何の不安も感じず、美しい水に囲まれ幸せに暮らしていました。海や川のきれいな水では、たくさんの人が泳ぎ、魚たちも躍るようにとび跳ねていました。そして、私たちが毎日口にしていく水もガラスのように透き通っていて、味もほんのりと甘く、とてもおいしく幸せでした。私はそんな大熊町の水が大好きでした。

三月十一日のあの瞬間、私たちはその水から突き放されたのです。蛇口からは水が一滴も出でませんでした。避難先でもジュースのみで水を口にすることはありませんでした。私の前から水は消えてしまったのです。

そうなること、人間とは思議なもので水を飲みたい、という欲求がますます強くなり、今まで感じたことのない不安が私の心を支配したのです。しかし、日にちが経つにつれ、私はもう一生水を飲むことができないかもしれないという絶望感で悲しくなり、あきらめかけた時もありました。

数日後、私たち家族は叔父の家に避難することになりました。ちょうど夕食時で、空腹だった私たち家族は、香ばしい香りにほっとしたのです。机の上にはカレーライスと水が置かれていました。私が夢にまで見た水との再会に、私は躍り上がって喜びました。私は嬉しくて、水を手にとると一気に飲み干しました。思わず、「あー。おいしい。幸せ。」

と叫んでいたのです。もう飲めないかも、と思っていた水を存分に味わいました。その水も大熊町の水のようにほんのり甘く柔らかく優しく、自分が生きていることを

実感でき涙がこぼれてきました。

私は会津に来てから知った言葉があります。会津のように雪深い地方では、雪に対して「克雪」「親雪」「利雪」という言葉があるそうです。この言葉を水にも使えないだろうかと思ってみました。「克水」「親水」「利水」という言葉です。「克水」は、あの大暴れする海や川を堤防やダムを築いて災害に備えます。「親水」は、水を敵とみるのではなく、友達と接するように、水の言葉に耳を傾けながら、こちらからも水と仲良く付き合っていくことです。「利水」とは、すでに生活用水、農業用水、工業用水、発電用水等に利用されていて、新しい可能性が見い出していけると考えます。

私は、あの時から水の大切さを考えるようになりました。今まであまりにも近くにあり、感謝の心を忘れていた自分をみつめ直すことができたのです。水は命と同じように尊いものです。地球を宇宙から見ると、真っ青です。地球はこの壮大な海があるから成り立っていて、私たちは水の恵みを受けて地球で幸せな暮らしができるのです。乾いた大地をいやしてくれる水。私たちの傷ついた心をうるおす水。水は生き物全てに命を吹き込んでくれるものです。だから私は、命の恩人である水を、未来の子孫たちにも輝いたまま残す責務があります。

私たちの大熊中学校校歌にこんな一節があります。「呼べばこたえる太平洋。紫金かがやく阿武隈や。流れて清き熊川や。わが古里は幸多し。」

壮大な海の美しさ、きらきら輝く阿武隈の山脈、清らかな熊川など、今は見ることができません。しかし、何年経っても私たちの古里は大熊町です。あの三月十一日の出来事は思い出したくない気持ちです。しかし、私たちが忘れてはいけないことも事実です。今は、私たちの古里にたくさんの方が幸せが戻ってくることを願っています。

KIZUNA

おおくまふれあい通信

第17号

東日本大震災と、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、大熊町は全町避難を余儀なくされ、私たちは今も、全国各地に分散して不自由な生活を強いられています。

長期化している避難生活、先行き不透明な状況の中で、ふるさと「おおくま」に対してどのような想いを抱いているのか、直接避難先へ訪問してインタビュー取材を行い、本紙に掲載させていただいています。

「KIZUNAおおくまふれあい通信」を通して届けられた想いを共有し、ふるさと「おおくま」と皆さまを「絆～きずな～」でつないでいくことができれば幸いです。

※株式会社鹿島印刷所（南相馬市）の記者が避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただきます。

※掲載する文章は、インタビューした内容をもとに記者が作成しますので、インタビューをお受けいただいた方が文章を作成する手間はございません。

町民体育祭



交通安全鼓笛パレード

「KIZUNAおおくまふれあい通信」で、あなたの想いを伝えてみませんか？

KIZUNAおおくまふれあい通信では、避難されている皆さまへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難先での活動や避難生活で感じていることなど、あなたの想いをこのコーナーでお話してください。大熊町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

応募先

大熊町役場会津若松出張所総務課秘書広聴係
電話：0120-26-3844 FAX：0242-23-7093
E-mail：somu@town.okuma.fukushima.jp

ナシの収穫



茨城県 稲敷市



ゆい あいな
油井 藍捺 さん (写真左)
あかね
紅音 さん (写真右)

自宅は熊3区で、被災当時、姉の藍捺さんは熊町小学校3年生、妹の紅音さんは同1年生だった。

被災前より、姉妹でソフトテニスに取り組んでいた。現在、茨城県稲敷市内で、家族とともに生活している

※インタビュー対応は母・綾子さん。

私たち一家は、地区の皆さんと共に避難バスで町を離れました。避難所となった田村市滝根体育館にお世話になりましたが、新潟県柏崎市内に住む姉夫婦が、子どもたちのことを心配し迎えに来たため、夫と両親を残し、私と娘たちは同市に向かいました。その翌月、子どもたちは新学期に合わせて同市内の小学校に通い始めました。

娘2人は、被災前よりソフトテニスに取り組んでいました。平成23年2月18日、長女・藍捺は、大熊町役場の町長室で、同年3月末に千葉県で開催予定だった第10回全国小学生ソフトテニス大会への出場を報告させていただきました。長女は、その大会のために、真冬の寒さそっちのけの意気込みで練習に励んでいました。被災当時は、大会に向けた最終調整の段階に入っていました。その大会は、震災の影響で中止となり、出場を断念せざるを得ませんでした。

避難後しばらくは、ソフトテニスの練習ができる状態ではありませんでした。柏崎市のソフトテニス関係者の皆さんの心遣いや、現在、所属している美浦ソフトテニスジュニアの皆さんから大熊町の団旗をかたどった手作りのキーホルダーをいただくなどして励まされ、再びラケットを握ることができました。

昨年4月、私たち一家は稲敷市に移りました。

長女は8月上旬に行われた「おおくま希望の翼」に参加しました。初めての海外経験で、いろいろな刺激を受けてきたようです。ソフトテニスでは、昨年、地元で開催された大会で美浦ジュニアとして団体戦で優勝できたのをはじめ、関東各地から多くの選手が集まる大会で上位入賞したことを力に、現在中学校の部活でソフトテニスを頑張っています。今の目標は、2019年の茨城国体で茨城県代表選手になり福島県や新潟県の代表選手と試合ができるように練習を一生懸命に行い、元気な姿を見てもらうことです。

次女は8月に行われた茨城県スポーツ少年団スポーツ大会ソフトテニス競技小学生高学年女子の部で96組中3位になり、9月下旬に開催される関東小学生ソフトテニス交流大会に出場が決まりました。関東一円から強豪が揃う大会です。猛暑の中、本人なりにペースを崩さず練習に励んでいる様子です。そして夢は、千葉県で行われる全国大会、富山県で行われる全国大会に行くことです。

子どもたちは元気に夢にむかって挑戦し続けています。こうした姿が、町民の皆様にとって、少しでも明るい話題になればと思っています。



栃木県 鹿沼市

たけうち みやこ
武内 都さん

自宅は下野上1区、幼稚園教諭として町に勤務していた。

平成19年に退職後、町内の各種活動に参加、避難後も活動を続けている。

現在、栃木県鹿沼市内で夫、両親と暮らし、その近所には次女親子が生活している。



割れた花瓶を片付けていた時、大地震の揺れは始まりました。「また、地震か！」数日前にも比較的大きな地震があったため、初めはその程度にしか思っていませんでした。一向に収まらないどころか、激しくなる揺れにどうすることもできなくなっていました。自宅には私と両親がいました。3人とも無事でしたが、その時間帯は、当時小学2年生の孫が小学校から下校途中でした。孫が心配でなりませんでしたが、高齢の両親をおいて出かけるわけにはいきません。その時、孫と同じ小学生がいる隣家の方が、下校経路に迎え出てくださり、無事、家まで送り届けてくださいました。孫は集団下校で帰宅途中、揺れの大きさのあまり路上に座り込み、身動きが取れない状態だったということです。

家族や近所の無事を確かめあっているうちに、地震で家財が散乱した自宅の内部を片付けることもできないまま、日が暮れてしまいました。その夜は、自宅前に停めた車の中で過ごしましたが、余震のたびに、孫が「怖い怖い」と私にしがみつき離れようとしませんでした。翌朝、防災行政無線で避難指示が出されたことを知りました。状況確認のため集会所に出向いていた夫から、どうしても避難しなければならぬ状況だと告げられました。しかし、その時は、原発に爆発やメルトダウンが迫っている状況という意識は全くありませんでした。

町を離れる際、両親は同じ地区の介護送迎事業者の方の車で、私たち夫婦は、娘や孫と自衛隊のトラックにそれぞれ乗り込みました。途中、両親らと離ればなれになりましたが、デンソー福島工場で合流できました。その後、町議会議員だった夫を残し、宇都宮市内に住む長女夫婦のもとで数日間滞在し、同市内のアパートを経て、後に鹿沼市内に移り、現在に至っています。こちらにきてから、庭と耕作放棄地を利用して畑作も始めました。折りに触れて、孫たちにも収穫の喜びを体験させていきます。

私は退職後、地域のお付き合いが手薄になっていましたが、ふるさと塾や婦人会、農協女性部に入りました。避難後も、そうした活動への参加を続けています。福島県内で開かれる会合にもなるべく参加するようにしています。特に、ふるさと塾では、大熊の民話を布芝居等で語り継いでいく取り組みに加わるなどしています。福島から離れていても、気持ちは常に故郷に寄り添っていきたいと思います。



福島県 いわき市



ヘアサロンさかもと

坂本顕弘さん(写真左)・洋子さん(写真右)

震災発生まで、洋子さんは町内で理容室を経営していた。

被災当時、さいたま市内の理容室で働いていた次男・顕弘さんが震災を機にUターンすることになり、今年2月に、JR植田駅近くで開店。親子での再スタートとなった。

※インタビュー対応は洋子さん。

地元を離れていた次男とともに店に立ちハサミを握る日々。3人の息子たちの中で、私と同じ理容の道に進んだのは次男だけでしたが、被災まで、こうしたかたちで共にすることになるうとは想像すらできませんでした。

私は、大熊町で理容店を経営していました。大地震が発生した当時、店内にお客様がいなかったため、自宅で洗濯物を取り込むなどしていました。揺れが落ち着き、店に戻ってみると、鏡や備品は無事でしたが、窓ガラスが割れ、棚に置いたものが床に散乱しており、お客様がいたらどうなっていたのかと思うほどでした。翌朝から始まった原発事故による避難では、バスで町を離れ、田村市内の避難所や二次避難所となった会津若松市内の宿泊施設を経て、平成23年秋、いわき市内の借り上げ住宅に移りました。それ以降、同市内の仮設住宅で生活しているお年寄りのもとを訪ね、出張理容を行うようになりました。仮設住宅には、自ら移動手段を持たないお年寄りが多く、そうした皆様から、とても喜ばれました。

2年ほど経過した平成25年秋、さいたま市内の理容店に勤務していた次男が、店を継ぎたいと言ってくれました。次男は町を離れるとき、地元には戻らないと話していましたが、その11月に勤務先を

退職しいわきに移ってきました。あきらめかけた店の再建でしたが、どうせやるならと、条件を決めて、土地を探し、自宅兼店舗を建て、今年2月に開店を迎えました。見知らぬ土地でゼロからの出発となり、うれしい反面、不安もありました。

新しい土地で開業してから半年が経過しました。いわき市内には理容店が数多くあり、競争が激しく、商売には厳しいところですが、仮設住宅でお世話になったお客様が、わざわざ足を運んでくださるなどしています。髪を切りながら、故郷の話をしたり、私も次男も、そうしたお客様から頂ける「絆」のあたたかさ癒されています。



ヘアサロン さかもと
〒974-8261
福島県いわき市植田町中央3-7-36
電話 (0246) 84-8797
定休日 月曜日・第1火曜日・第3日曜日

●大熊町関連施設お問い合わせ先●

大熊町役場

●会津若松出張所

〒965-0873 会津若松市追手町2-41
TEL：0120-26-3844（フリーダイヤル）
FAX：0242-26-3794

●いわき出張所

〒970-1144 いわき市好間工業団地1-43
TEL：0120-26-5671（フリーダイヤル）
FAX：0246-36-5672

●中通り連絡事務所

〒964-0915 二本松市金色421-10
オフィス・ウインドストリーム1F
TEL：0120-24-1013（フリーダイヤル）
FAX：0243-24-1259

●現地連絡事務所

〒979-1306 大熊町大字大川原字手の倉125
坂下ダム施設管理事務所内
TEL：0240-32-2318 FAX：0240-32-5460
※現地連絡事務所では大熊町内の防火・防犯、
一時立入者の補助業務を行っています。それ
以外の業務につきましては、会津若松出張所
またはいわき出張所、中通り連絡事務所へお
問い合わせくださいますようお願いいたします。

コミュニティ支援関東事務所

〒330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町2丁目15-4
アイリーセブンコート1階
TEL：048-711-7135

大熊中学校

〒965-0003 会津若松市一箕町八幡字門田9-2
TEL：0242-23-7214 FAX：0242-37-7157

大野小学校

〒969-3411 会津若松市河東町大田原字村中186
TEL：0242-75-2350 FAX：0242-75-2352

熊町小学校

〒969-3411 会津若松市河東町大田原字村中186
TEL：0242-76-1821 FAX：0242-76-1822

大熊幼稚園

〒969-3471 会津若松市河東町広田字塩新182
TEL：0242-75-3150 FAX：0242-76-1718

大熊町社会福祉協議会

〒965-0873 会津若松市追手町2-41
(大熊町役場会津若松出張所内)
TEL：0242-29-5760 FAX：0242-29-5761

大熊町商工会

〒965-0873 会津若松市追手町2-41
(大熊町役場会津若松出張所内)
TEL：0242-29-5770 FAX：0242-29-5771



町長室から

渡辺 利綱



会津で迎える4度目の夏が過ぎようとして
います。不思議なもので、出張からの帰りに
会津若松市の景色が車窓に映ると、ホッとす
る自分があります。会津は第二の故郷。その思
いは月日を重ねるほどに深まっていくよう
です。

しかし、大熊での思い出が色あせることは
ありません。年中体を動かして米や野菜をつ
くり、旬の時期に食べて暮らしていた当たり
前の日々を振り返ると、帰りたいとの気持ち
が押し寄せます。

町は現在、向こう10年間の町の方向性を示
す第二次復興計画の検討を、有識者や一般町

残暑に見る夢

民の方を交えて進めています。帰還への希望
が持てるよう、夢のある内容を盛り込みたい
と考えています。不確定な将来のことより、
今の生活改善に力を注いでほしいとの声をい
ただくこともあります。しかし、若い世代の
中には共感してくれる人もいます。長期にわ
たつて戻れなくても、必ず大熊で暮らせる日
は来るのだ。そう思ってもらえる方が一人
でも増えてくれるなら、多少「夢」に重きを置
いた計画でもいいのではないかと思います。
計画がまとまるのは、まだ先ですが、職員
に奮起を促しつつ、町民の方の柔軟な発想で
素晴らしい計画に仕上がることを期待してい
ます。
※日々の執務や暮らしの中で感じたことを紹介
し、町を愛する思いを少しでも皆さんと共有す
るため、「町長室」を掲載します。

大熊町の避難状況

○人口及び世帯数

	人口数	世帯数
平成23年3月11日時点	11,505	4,235
平成26年7月31日現在	10,887	3,955
増 減	△ 618	△ 280

●避難先の状況（平成26年8月1日現在）

福島県内の主な避難先地域

いわき地域4,171人、会津地域2,166人、
県中地域1,111人

福島県外の主な避難先都道府県

埼玉県401人、茨城県388人、
東京都316人

相談

「全国一斉！法務局休日相談所」開設のお知らせ

法務局では、地域住民の方々から日常生活での様々な心配ごと、困りごとの相談をお受けし、行政サービスの一層の向上を図ることを目的として「全国一斉！法務局休日相談所」を開設します。

相談は無料で、秘密は守られます。

◆日時

平成26年10月5日(日)
午前10時～午後4時

◆場所

- (1) 福島地区 福島駅前「中合デパート」(2番館7階イベントホール)
- (2) 相馬地区 「イオンスーパーセンター南相馬店」
- (3) 郡山地区 郡山駅前「ピッグアイ」(7階市民交流プラザ)
- (4) 白河地区 「イオン白河西郷店」
- (5) 会津地区 「生涯学習総合センター(會津稽古堂)」

(6) いわき地区 「イオンいわき店」

◆内容

不動産・商業登記の手續、土地の境界問題(含む筆界特定)、遺産相続、地代・家賃等の供託、戸籍・国籍の問題、夫婦・家庭内の問題、成年後見、公証に関する事、お年寄り・子どもへの虐待、いじめ・体罰問題、セクシャル・ハラメント、障害者の差別問題、風評被害による人権問題など

◆担当者

法務局職員、司法書士、土地家屋調査士、公証人、人権擁護委員

◆お問い合わせ先

福島地方法務局総務課
☎024-5534-1941

「法の日」司法書士無料法律相談会を開きます

毎年10月1日は法の役割や重要性を国民の皆さんに知ってもらうため制定された「法の日」です。これに合わせて、福島県司法書士会は恒例の無料法律相談会を県内13会場で

開きます。不動産登記、会社や法人の登記、裁判手続き、成年後見の申し立て、債務整理など生活に身近な悩みに答えます。また東日本大震災ならびに東京電力福島第一原発事故の被災者、被害者の皆さんの悩みにも引き続き答えていきます。

司法書士無料法律相談会会場一覧

支部	日時	場所	所在地	お問合せ先
司法書士会館	10月1日(水) 10時～15時	福島県司法書士会館	福島市新浜町 6番28号	024-534-7502
福島	10月11日(土) 10時～15時	コラッセふくしま 研修室B	福島市三河南町 1番20号	024-525-4089
	10月11日(土) 10時～15時	二本松市民交流 センター 第1会議室	二本松市本町 二丁目3番地1	0243-24-1215
郡山	10月4日(土) 10時30分～15時30分	イトーヨーカドー郡山店 5階西部コミュニティ ルーム	郡山市西ノ内 2-11-40	024-939-3211
	10月4日(土) 13時～16時	田村市船引公民館 2階	田村市船引町船引字 南元町28番地	0247-82-1133
会津	10月2日(木) 10時～15時	会津坂下町 地域包括支援センター	会津坂下町字西南町 裏甲3998番地1	0242-84-2700
	10月2日(木) 10時～15時	南会津町福祉ホール	南会津町田島字中町 3918番地1	0241-62-4169
	10月3日(金) 10時～15時	喜多方市 保健センター 2階和室	喜多方市字御清水東 7244-2 (喜多方市役所東側)	0241-24-5221
	10月4日(土) 10時～15時	会津若松市生涯学習 総合センター 会津稽古堂	会津若松市栄町 3番50号	0242-22-4700
白河	10月4日(土) 10時～15時	白河市産業プラザ 人材育成センター	白河市中田 140番地	0248-22-3512
	10月4日(土) 10時～15時	須賀川共同福祉施設 須賀川市民温泉2階	須賀川市茶畑町 71番地	0248-76-2332
いわき	10月1日(水) 10時～15時	いわき市 生涯学習プラザ4階	いわき市平字 一丁目1番地	0246-37-8888
相双	10月4日(土) 10時～15時	新地町 農村環境改善センター	新地町谷地小屋字 樋掛田40-1	0244-62-2085

オータムジャンボ宝くじ

◆発売期間◆

9月19日～10月10日

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよい街づくりに使われます。



臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金に関するお知らせ

大熊町は現在、臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金の申請を受け付けております。申請書の受付期限は平成26年9月30日（火）必着となっておりますので、まだ申請がお済みでない方は期限内に申請してください。

なお、申請期限を過ぎてしまいますと給付金を受け取ることができませんので、お気をつけください。

ご不明な点等がございましたら下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】大熊町臨時給付金コールセンター

☎0120-200-748（通話料無料）

※平日の午前8時30分から午後5時15分まで

相談

公証週間について

10月1日から7日は「公証週間」です。

遺産相続、任意後見契約、金銭貸借、不動産貸借、離婚に際しての慰謝料、養育費などの問題は、後々にもめごとを引き起こしがちです。そんなとき遺言や当事者間の取り決めを公正証書にしておけば、トラブルを防止し、権利や財産を守ることができます。

会津若松公証役場では、10月中は平日午後7時まで時間を延長して相談に応じますので、お気軽にご相談ください。相談は無料です。要予約（プライバシー確保のため）。

お問い合わせ先

会津若松公証役場

☎0242-3711955



税務署から

申告に関するお知らせ

期限延長地域（※）の申告手続等の期限は平成27年3月31日となっております。

期限間近になりますと税務署等の窓口が大変混み合いますので、就労不能損害や営業損害等に係る賠償金の申告をされる方はお早めに手続をお願いいたします。

なお、避難指示区域内に住居を有していた方は、家財に対する雑損控除を受けることができる場合がありますので、詳しくは相馬税務署又は最寄りの税務署に電話でお問い合わせください。

税務署では予約による申告相談を行っています。

※田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村

お問い合わせ先

相馬税務署

☎0244-363111

※自動音声に従って「0」番を選択してください。

説明会

「ふるさとくしま 合同就職面接会ーN 東京」が開かれます

福島県に就職を希望する大卒者やUターン、Iターン希望者、避難者等を対象に、福島県内の企業が東京で就職面接会を開催します。厚生労働省福島労働局の主催、福島県の共催です。奮ってご参加ください。

◆開催日

平成26年9月21日（日）

◆場所

東京国際フォーラム展示ホール1

（NPOふるさと回帰支援センターの「ふるさと回帰フェア2014」と同会場で実施します）

※詳細は次のアドレス <http://fukushima-roundukyoku.jsite.mhlw.go.jp/>（じく）確認ください。

お問い合わせ先

福島労働局職業対策課

☎024-529-5438

秋季町長杯パークゴルフ大会が 開かれます

パークゴルフを通じて町民の健康維持と愛好者相互の幅広い交流を図り、併せて東日本大震災及び原子力災害から一日も早い復興の活力となることを目的として開催されますので、たくさんの町民の皆さんのご参加をお待ちしています。

日 時 平成26年10月3日（金）
開会式 午前8時45分から

申し込み 今回同封した開催要項で
申し込んでください

場 所 北塩原グランデコリゾート・パークゴルフ場
(福島県耶麻郡北塩原村桧原荒砂沢山)



【お問い合わせ先】 大熊町役場会津若松出張所教育総務課

第1期復興公営住宅の再々募集について

第1期再募集（7月1日～7月31日）の結果、募集戸数に満たなかった団地について、入居対象町村を拡大し、再々募集を行います。

再々募集の申し込み期間 平成26年9月1日（月）～9月30日（火）※当日消印有効

再々募集を行う団地

所在地	団地名	棟 名	優先、一般住宅の別	間取り	募集戸数	入居対象町村
福 島 市	北 信	20号棟	一般住宅	2LDK	3	富岡町 大熊町 双葉町 浪江町 飯舘村
				3LDK	7	
	笹 谷	8号棟	一般住宅	2LDK	1	
				3LDK	1	
		9号棟	優先住宅	2LDK	1	
			一般住宅	2LDK	1	
会津若松市	古川町	1号棟	一般住宅	3LDK	6	
				3LDK	2	
	年貢町	1号棟	一般住宅	2LDK	1	
		2号棟	一般住宅	2LDK	1	
郡 山 市	東 原	1号棟	優先住宅	2LDK	4	
			一般住宅	3LDK	4	

【お問い合わせ先】 福島県復興公営住宅入居支援センター ☎024-522-3320
ホームページ <http://www.npo-junkan.jp/fukkou/>

国・県義援金の第2次追加配分と町への義援金配分について

国および福島県より各市町村へ配分された義援金及び町に寄せられた義援金は、8月7日に開きました東日本大震災・原子力災害義援金配分委員会で支給内容を決定しましたので、皆さまに支給させていただきます。

できるだけ早くお届けするため、前回と同様、義援金の振込を行った口座へ振り込みさせていただきます。

なお、口座の変更が必要となる方は、9月19日（金）まで生活支援課までご連絡ください。

◆金額 1人当たり 20,000円

(内訳) 国・県義援金の第2次追加配分（5回目） 15,000円
町に寄せられた義援金配分 5,000円

※平成23年3月11日時点で大熊町に住民票がなかった方は、国・県義援金の第2次追加配分（5回目）のみ対象となりますので、支給額は15,000円となります。

◆支給対象者 国・県義援金の第2次追加配分（4回目）受給者で、平成26年8月1日時点にご存命の方を対象とします。

◆支給時期 平成26年10月上旬より順次振り込みさせていただきます。

【お問い合わせ先】大熊町役場会津若松出張所生活支援課

「みんなこらんしょひるば」のご案内

日時 第1回 平成26年 9月19日（金）午前10時～正午
第2回 平成26年 10月31日（金）午前10時～正午
第3回 平成26年 11月21日（金）午前10時～正午
第4回 平成26年 12月19日（金）午前10時～正午

会場 大槻東地域公民館（郡山市大槻町御前南2丁目93）

対象者 県中地域に避難している双葉8町村および南相馬市の住民

内容 軽体操、唱歌、おしゃべり広場、よろず相談、栄養相談、歯科相談、心の相談、葉の相談

主催 福島県県中保健福祉事務所

スタッフ 医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、臨床心理士、管理栄養士、栄養士、歯科衛生士

【お問い合わせ先】県中保健福祉事務所健康増進課
☎0248-75-7814

消防署から

仏壇で使用するろうそく・線香による火災に注意しましょう！

お彼岸に伴い、ろうそくや線香の使用が多くなる事から
つぎのような火災が発生しております。

- 風や振動などで仏壇のろうそくが倒れて出火
- 仏壇のお供え物などに手を伸ばした際、
ろうそくの火が着ている衣類に着火



つぎのことに注意して火災を予防しましょう！！

○火をつけたまま
その場を離れない。



○ろうそくの台は
安定したものを
使用する。



○倒れないよう
窓等の開放に
注意する。



○風の強い日は
火を使わない。

お墓参り時のお願い！

警戒区域内での火気の取扱いについては町村によって
異なりますのでルールを守ってお参りをしましょう。

もういいかい 火を消すまでは まあだだよ

平成26年度全国統一防火標語



火事と救急は119番

<消防署連絡先>

◇浪江消防署 0240-38-2119

◇富岡消防署 0240-25-2119



こころの元気を育てる講座

大熊町保健センターは9月に会津若松市と郡山市で「こころの元気を育てる講座」を開きます。町民の皆さまのご参加をお待ちしています。

—こころの元気を育てる講座 医師講演会と個別相談—

自分でできる・家族ができる 「心の健康診断」

～離れていてもSOSをキャッチする～

- 日 時** 9月19日(金) 午後2時～4時
- 場 所** 会津若松市生涯学習総合センター
会津稽古堂研修室2、3
- 内 容** ストレスに関する講話と個別相談
- 講 師** 会津中央病院 救急心療内科部長・
村山浩之先生
- 定 員** 100人(定員になり次第、締め切ります)
- 申し込み** 9月5日(金)まで電話で

—こころの元気を育てる講座 in 郡山—

自然の素材を使った 小物づくり

- 日 時** 9月25日(木) 午前10時～正午
- 場 所** ピックパレットふくしま
プレゼンテーションルーム
- 内 容** 自然の素材を使った小物づくり
- 講 師** ふるさと塾自然木の実部会・泉篤さん
- 定 員** 20人(定員になり次第、締め切ります)
- 申し込み** 9月18日(木)まで電話で
- 持ち物** 参加費 500円

【お問い合わせ先】 大熊町役場会津若松出張所保健センター



心の健康相談のお知らせ

福島県内の各保健福祉事務所(保健所)では、年間を通じて精神科医による「心の健康相談」を実施しています。相談は無料で、秘密は厳守されます。

実施日時	場 所	住 所	備 考
9月25日(木) 午後1時～4時	福島県精神保健福祉センター	福島市御山町 8-30 福島県保健衛生合同庁舎 5階	予約制 ☎024-535-3556
9月22日(月) 午後1時15分～3時30分	会津保健福祉事務所 (会津保健所)	会津若松市追手町 7-40	予約制 ☎0242-29-5275
9月17日(水) 午後1時30分～3時30分	南会津保健福祉事務所 (南会津保健所)	南会津町田島字天道沢甲 2542-2	予約制 ☎0241-63-0305
9月17日(水) 午後1時30分～3時	県南保健福祉事務所 (県南保健所)	白河市郭内 127	予約制 ☎0248-22-5649
9月26日(金) 午後2時～4時	新地町保健センター	新地町谷地小屋樋掛田 40-1	予約制 ☎0244-26-1132 (申し込みは相双保健福祉事務所)

※相双保健福祉事務所いわき出張所(0246-24-6118)では随時保健師などが相談に応じています。
※県外でも同様の相談会を行っていますので、最寄りの保健所にお問い合わせください。

保健だより

保健センターいわき出張所 各種催しのご案内

子育てひろば



- 日にち** 9月10日(水)
- 時間** 午前9時30分～正午
- 場所** 大熊町役場いわき出張所2階
- 対象** 未就学児とその親
(祖父母も大歓迎)
- 内容** ベビーマッサージ
- 講師** 原竹菜月(ベビーケアセラピスト)
- 準備物** バスタオル、水分
- 申込み** 不要

タッチケアサロン

NPO法人
Heartwarming主催



- 日にち** 9月29日(月)
- 時間** 午前9時30分～正午
- 場所** 泉公民館体育館
(いわき市泉町四丁目13-11)
- 対象** 未就学児とその親
(祖父母も大歓迎)
- 内容** 親子ヨガ
- 服装** 動きやすく、裸足になれるもの
- 準備物** タオル、水分
- 申込み** 不要

健康茶話会 ～楽しくカラダを動かそう～

- 日にち** 9月12日(金)
- 時間** 午前10時～11時30分
- 場所** みんぷく会議室
(いわき市中央台高久2丁目25-4)
- 対象** おおむね60歳以上の方
(どなたでもOK!)
- 内容** 簡単な体操、茶話会
- 講師** Jヴィレッジフィットネスクラブ
指導員
- 申込み** 電話にて前日までに

※9月は大熊町社会福祉協議会
主催のサロンにお邪魔します

～食べて喋って カラダを動かしませんか～

- 9月 2日(火)：鹿島公民館(料理教室)
- 16日(火)：植田公民館(健康体操)
- 30日(火)：四倉公民館(健康体操)

【お申し込み・お問い合わせ先】
大熊町保健センターいわき出張所
保健師 / 看護師

健康教室

「作って、食べて、しゃべろう会」
のご案内

「天高く馬肥ゆる秋」の到来です。夏の疲れをとって、
すがすがしい実りの季節を満喫しましょう。
今回は、疲労回復メニューです。ご参加をお待ちしております。

- 日時** 9月19日（金）午前10時～午後1時
- 場所** 会津若松市勤労青少年ホーム
- 持参物** エプロン、三角巾
- 参加費** 300円
- 対象** 大熊町民ならどなたでも
- 申込み** 9月12日（金）締め切り



※会場の都合により、当初の実施日9月26日から9月19日に変更となりました。ご了承ください。

【お申し込み・お問い合わせ先】大熊町役場会津若松出張所保健センター

『ふら〜っとルーム』開設のお知らせ

ふくしま心のケアセンター会津方部センターでは、気軽に立ち寄って自由に過ごして頂けるお部屋「ふら〜っとルーム」を開設しています。

会場	日時
ゆっくりすっぺ	毎週月曜午後1時30分～3時30分
交流ステーション コミュニティ結	9月16日（火）午後1時30分～3時30分
第二中学校西仮設住宅集会所	9月11日（木）午前10時～正午

【お問い合わせ先】ふくしま心のケアセンター会津方部センター ☎0242-28-6252
※心のケアセンターは看護師・社会福祉士などの専門員で構成されています。

「県民健康管理ファイル」 ご存知ですか？

すでにお手元に配布されている、『県民健康管理ファイル』は活用していますか？
このファイルはご自身の健康状態を把握するとともに、医療機関受診の際には
診療の参考になるように、健康についての調査や検査結果等を
まとめて記録、保存できる家庭用カルテ・健康手帳となっています。

放射線関係の記録として

放射線に関する貴重な記録となります。結果通知等ファイルして保管しましょう。

- 「県民健康管理調査」基本調査の結果（外部被ばく線量推計）
- 甲状腺検査（超音波検査）の結果
- 個人線量計の結果
- ホールボディカウンター検査の結果
- スクリーニング検査の結果など

健康の記録として

健診等の結果をファイルし健康状態の振り返りとしましょう。

- 生活習慣や生活の変化の記録
- 健康診査・がん検診の結果
- 予防接種の記録
- 乳幼児健診等の結果

放射線の理解のためにこれまでよりも高い放射線量の中で暮らしていかなければなら
なくなった現状において、必要な放射線量に関する情報をまとめました。

クリアーポケット

調査や健診の結果、自らの記録などの保存用として利用して下さい。

（県民健康管理ファイルより抜粋）

※一時立ち入りを含めた放射線関係の記録や健康の記録を綴っておきましょう。

※大熊町では9月より福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターの担当者を招
き、「県民健康管理ファイル」の活用の仕方について説明会を開催します。初めての
開催となりますので、多くの皆様の参加をお待ちしています。開催日時、場所等につ
いては別にお知らせします。





復興チャリティ
歌謡まつりが
開かれます

日時 10月4日(土)
開場 午前9時30分
会場 いわき市文化センター大ホール
主催 スリーエース会
入場料 無料
【お問い合わせ先】 090-2607-8478

こらんしょ大熊
(県北地方大熊町避難者交流会)
を開催します

県北地方避難者交流会「こらんしょ大熊」では、福島市や伊達市等に避難されている町民の皆様の、交流会へのご参加をお待ちしています。

◆日時 (毎月第1・第3土曜日)
9月6日(土) 9月20日(土)
午前10時～午後2時
◆場所 旧佐久間邸
〒960-2154福島県福島市
佐倉下加藤7-6
電話：024-546-3948

【お問い合わせ】
代表 菅野充史 ☎090-7233-1148

埼玉県へ避難している皆さんへ

輪になろう!

ふみ出そう!

ひまわりサロン

◆日時 9月18日(木) 10:00～
・お楽しみサロン
ひざ掛けづくりを予定しています
◆場所 川口市立やすらぎ会館
(川口市南鳩ヶ谷6-8-16)

【お問い合わせ】
ひまわりの会 ☎080-5431-0123 (島田)

茨城県に避難の大熊町のみなさんへ

大熊町避難者コミュニティ
「積小為大の会」のご案内

9月の定例会は次の通り開催します。

◆日時 平成26年9月27日(土)
9:30～12:00
◆場所 社団法人茨城県産業会館
(水戸市桜川2-2-35)
◆駐車場 産業会館の駐車場をご利用
ください
◆内容 懇談会および懇親会

【お問い合わせ】
野田朋弘(日立市) ☎090-8423-5608
Email: tomohiro-n@higashi-t.com

おくやみ申し上げます

死亡者名	年齢	住所
2014年(平成26年)7月		
井戸川 トシ	90歳	南 平
伊藤 康子	86歳	新 町
太田 伸	80歳	熊 町

死亡者名	年齢	住所
渡部 清	66歳	西大和久
高村 キン子	81歳	西大和久
高松 憲雄	66歳	長者原

大野1区と2区、震災後初の総会で交流

大野1区と2区は7月10日、会津若松市の東山グランドホテルで震災後初めての総会を開催しました。終了後は合同で懇親会を開き、親交を深めました。渡辺利綱町長も出席し「先の見えない避難生活が続いており、町の環境整備と町民の生活支援を両立させていく。長い道のりだが一步一步進んでいく」とあいさつがありました。



合同で開いた懇親会

震災後初めて顔を合わせた町民もおり、懇親会は盛り上がりました。住民同士の絆を維持するため、今後も年1回の懇親会を開催したいと思っています。

下野上2区6班の親睦会を開きました



楽しく語らった親睦会

7月13、14の両日、会津若松市の大江戸温泉物語あいつで下野上2区6班の親睦会を開きました。会食の開始前から盛り上がり、近況報告や、これからのことなどを語り合いました。なんととっても班の思い出がたくさんあり、昔話は尽きませんでした。

次回の幹事も決まり、再会の約束をして散会しました。今回参加できなかった方々、次回の参加をお待ちしています。

昭和59年度生まれ 大熊中学校卒業生 同級会のご案内

皆様もますますお元気のことと存じます。

さて、成人式より10年目という節目の年に同級会を計画いたしましたので、多数のご参加をお願いいたします。

招待状により出欠の確認を行っておりますが、本日まで招待状が届いていない場合は、下記の連絡先に9月10日までに「氏名・参加の有無」を連絡していただきますようお願いいたします。

日時 平成26年9月27日(土) 受付11:00 開宴12:00
場所 スパリゾートハワイアンズ (いわき市常磐藤原町蔵平 50)
TEL: 0246-43-3191 (代表)

会費 6,500円 (当日、受付でいただきます)

幹事 新藤佑一、仲野隼人

連絡先 Eメール: ookumachuu59to60@yahoo.co.jp
facebookページ: <http://facebook.com/groups/1432666097003890>

元気だがあ

昭和44年度(旧)熊町中学校卒業生諸氏の還暦祝いを兼ねた同級会を下記の通り開きます。

開催日 平成26年10月11日(土)
場所 ホテル浜とく
(いわき市常磐藤原町蔵平32)
☎ 0246-42-3665

※詳細については下記の者に連絡をお願いします。

発起人代表

奥山文男 090-4311-3033
松永(旧姓志賀)妙子 080-5574-4768
近(旧姓川木)尚子 080-1816-4778

表紙の
写真

夏の夜、キャンドルほのかに



被災地復興支援イベント「ラブフォーニッポンロード」が東日本大震災から3年5カ月の8月11日、会津若松市の大野小・熊町小仮設校舎で行われ、キャンドルの灯が夏の夜をほのかに照らしました。

キャンドル・アーティストのCandle JUNE（キャンドル・ジュン）さんらが訪れ、キャンドルづくりや音楽ライブ、大道芸などを繰り広げました。日没に合わせて、校庭の一角に集めた数百本のキャンドルに火をともしました。キャンドルには参加者が「すべての人に感謝します」などのメッセージを記し、静かに祈りをささげていました。



▲大道芸を楽しむ参加者



▲子どもらと交流するキャンドル・ジュンさん（右）

仮設住宅で粘土工作に挑戦

会津若松市のみどり公園仮設住宅で7月30日、粘土工作教室が開かれ、住民の皆さんが思い思いのキャラクターづくりに挑戦しました。

大熊町保健センターの健康教室の一環で、ストレス解消を目的に実施しました。粘土キャラクター製作者おちゃっぴさんの指導を受けた経験を持つ同センター職員が講師を務めました。参加者は7色の粘土を丸めたり伸ばしたりして蛇や牛、熊などのキャラクターを仕上げていきました。完成品を見せ合って出来栄をほめ合うなど、楽しい時間を過ごしていました。



▲真剣な表情で製作に取り組む参加者



▲参加者が仕上げた力作の数々